

宮城野区岩切地区民生委員児童委員協議会

(平成 27 年 1 月)

当地区は宮城野区の北部に位置し、高森山（桜の名所）、青麻神社、県民の森があり、七北田川が東西に流れる自然環境に恵まれた風光明媚な土地柄です。

世帯数は約 7,340 世帯で人口は 18,000 名余り、古くから絆の強い住みやすい地域です。しかしながら、他の地域と同様に急速に高齢化が進んでいる地域でもあります。

岩切地区民児協は、25 名の委員で 13 町内会 1 自治会の地域を担当しています。東日本大震災当日は定例会の開催中で、避難のため机の下にもぐりこんだりしましたがケガをした委員もいました。

地盤が弱いために家屋の損壊は古い建物ほど多く、全壊、半壊の家が多数あり、街並みが変わるほどの被害でした。幸い人的被害がなく安堵しました。

発災と同時にライフラインが止まる中、町内会や岩切地区社会福祉協議会の方がたと協力し、避難所を設置、運営し、非常食の配布や炊き出しを行なうとともに、一人暮らしの高齢者の安否確認を行ないました。

震災 2 日後、堺市役所の応援隊が到着し、阪神・淡路大震災での体験を生かした救援活動の手際の良さには感銘し、遠路応援をいただいたことに感謝してやみません。

未曾有の大震災を経験した中で将来に明るい光がみえたことがありました。普段無関心、無感動とされていた地元の中学生在がボランティアとして避難所の運営に積極的に参加してくれ、将来の力強さを感じたほどでした。

その後、クラブ活動に「ボランティア部」が設立され、防災訓練等にも参加し、各方面で活躍しています。先生方も「学校が変わった」と喜んでいます。私も民児協も震災を機にまとまりが出た感じがします。

社会福祉協議会との協働事業として、一人暮らし高齢者を対象にした「ふれあい懇談会」、高齢夫婦を対象にした「高齢夫婦の集い」を開催し、好評を得ています。

現在、地区内では他地区よりの避難者で、「みなし仮設住宅」で生活されている方も数多く、新しい土地で再出発された方など、まだまだ不安を抱えたまま頑張っている方もいます。一日も早く復興されることを願わずにはられません。

「となりは何をする人ぞ」と言っている場合ではありません。「災害は忘れた頃にやってくる」の格言通りまた来ます。3. 11 災害を良き体験として後世に伝えていくことが私たちの使命ではないでしょうか。

震災後もうすぐ丸 4 年になります。復興もままならない現在ですが、もう一度災害について考えるのが“今”でしょう。「災害にあった人を置き去りにしてはならない」、「災害の怖さを忘れてはならない」2011. 3. 11 大震災を経験した仲間だから。